

平成29年度 第2回 埼玉県社会教育委員会議 会議録

1 日 時 平成29年12月1日（金）10：00～12：00

2 会 場 J A埼玉県信連浦和分館 5階会議室A

3 出席した委員 （18人）

五島アツ子委員、植田富美子委員、内田修弘委員、風間重文委員、
木村直美委員、小儀美穂委員、島田英男委員、林俊幸委員、
春山教子委員、和田明広委員、青山鉄兵委員、伊藤雅俊委員、
小出敦子委員、関根正昌委員、寺山昌文委員、中野洋恵委員、
羽石貴裕委員、山本和人委員

4 欠席した委員 （2人）

有田るみ子委員、笛木正司委員

5 あいさつ

埼玉県教育局市町村支援部 松本浩 部長

7 議事の経過

（1）議長の開会宣言

（2）会議の公開・非公開

議長が会議の公開・非公開を委員に諮り、公開とする。
傍聴者なし

（3）会議録署名委員の指名

議長から風間重文委員と木村直美委員が指名された。

（4）議題及び経過

ア 議題

- 埼玉県社会教育委員会議のテーマ案について（審議）
- 市町村社会教育委員会議の状況について（報告）
- 地域における様々な課題について（協議）

イ 経過

埼玉県社会教育委員会議のテーマ案について（審議）

- 議長 はじめに、今期の埼玉県社会教育委員会議のテーマについて、事務局より説明願いたい。
- 事務局 資料2、3について説明。
- 議長 ただ今の説明を踏まえて、今期の埼玉県社会教育委員会議のテーマ案について皆様から意見や質問等をお願いしたい。
- 委員 このテーマ案の文言は、以前から言われていることである。何か新しさを入れてもよいのではないか。
- 議長 確かによく使われている文言ではある。しかし、前回の会議でも委員の皆さんにいろいろな課題を挙げていただいたように、様々な課題がある中で、それぞれの課題を解決する道筋を示すことで、県の社会教育委員会議としての大きな役割を果たせるのではないか。基本的にはこのテーマ案でご検討いただきたい。
- 委員 平成29年12月版の「彩の国だより」に、埼玉県は共生社会の実現を目指していくとあった。社会教育の立場からも対応すべきではないか。
- 議長 それぞれの地域課題を解決していきながら、同時に、地域を創造していくことが大事だと考える。そのような意味で、このたびのテーマ案に含まれる「地域社会づくり」と「共生社会の実現」は重なるところがあると考えている。
- 事務局 山間部の地域課題と都市部の地域課題には違いがあるし、同じ市町村の担当部局間にも地域課題のとらえ方に違いがある。しかし、社会教育全体の視点から俯瞰すると、共通するものが見えてくるのではないかと考えている。学校教育を例にとると、主体的・対話的で深い学びというテーマでは、全ての学校において、教員の指導力や子供たち

の関心・意欲・態度、あるいは教材の工夫など、共通する課題が出てくると考えられる。同じようにどの社会教育担当者も共通の視点で社会教育上の課題を考えることができるようになることを目指し、お示ししたテーマ案で協議を進めていきたいと考えている。

委員 いろいろな問題を包括しているテーマ案である。ただ、県北、県南での地域課題はそれぞれ特性があり、違ってくる。異なる地域課題を具体的にどう把握していくのか。

事務局 地域課題のそれぞれを別々に考えていくと、收拾がつかなくなる。ある程度共通なものをまとめて、いくつか類型を考えていくつもりである。

委員 具体的な事例のようなものも考えていくのか。

事務局 具体的な事例の紹介も考えている。

委員 ここで言う地域課題とは、市町村が抱えているような個別具体的な地域課題であるのか、それとも社会教育的な観点から整理された一般的な地域課題なのか。

事務局 子育ての問題、過疎の問題、共生社会の実現などのように、内容別、対象別に分類して大括りにとらえることも考えられる。

委員 大きなテーマがあって、それに対してそれぞれの密接した課題があると考えてよいか。

事務局 例えば、東西南北それぞれの地域の課題で迫るなど、大きな括りをつくっていくとよいと考えている。

議長 すべての人が学び、さらに、学んだことを生かした支え合う地域づくりを人とのつながりの中で考えていく必要がある。あくまでも学び合う、教え合うというつながりの中で学んだことを生かして地域課題の解決に向けて取り組んでいくことが大事である。学び、学んだことに関わった人たちが変革するものと考えていくと、図書館での読み聞

かせなど、具体的な取組の事例がみえてくるかと思う。方向性としてはこのテーマ案でよろしいか。

委員

(委員の同意)

市町村社会教育委員会議の状況について（報告）

議長

第1回会議において、市町村の社会教育委員会議の様子等を見る必要性について意見が出された。これを受け、事務局が県内の社会教育委員会議を視察したので、事務局より報告をお願いしたい。

事務局

資料4について報告。

議長

ただ今の報告について意見があればお願いしたい。

委員

社会教育委員会議で実施している事業ではなく、市で行っている事業に社会教育委員が視察に行かれたということか。

事務局

社会教育委員会議の提案により、市が始めた事業を視察したということである。

委員

社会教育委員会議が市に対して、企画や提案などをする関係ができているということか。

事務局

そうである。

委員

メンバーの構成や過去の報告を見ると、子供を中心とした課題が話し合われているように感じられる。この市以外でも、このようなテーマで話し合われているのか。

事務局

全市町村の社会教育委員会議の協議テーマを把握しているわけではないが、家庭教育支援や学校と地域の連携に関すること、学齢期の児童生徒に関わるテーマは多く取り上げられているようである。

議長

他の市町村の社会教育委員の現状はいかがか。

委員 以前、ある市の弁論大会の中で、中学校の生徒が、学校評議員や地域の方のおかげで地域の力を知ることができた、という内容の弁論をした。地域の事業を通して地域の力を知った、というよい成果であったと思っている。

議長 地域とのつながりがもてたよい事例である。他にあるか。

委員 報告のあった市では、社会教育委員会議を年8回も開催しているということに驚いている。地元の社会教育委員会議は年3回程度だった。以前は、地域の公民館によって、地域で活動しようというボランティアが成り立っていた。現在でも、アクティブシニアや男性の地域デビューなどについて呼びかけをしているが、今は、ボランティアの趣旨を理解していない人が多くなっている。また、学校教育とのつながりがどうしてもできなかった。学校が積極的に社会教育に協力してほしいと思っている。学校に社会教育の必要性を伝えようとしているが、なかなか実現できないので、このテーマ案に大賛成である。

委員 市で社会教育委員を2年間務めていた。社会教育委員会議は年に5～6回行われていた。以前は、学校教育と社会教育とは別物といった感じがあったが、最近、学校教育側が社会教育という言葉を使い始めた。子供が社会教育に接する機会は必ずあるので、そこで大人が認識を変えていくべきである。

委員 先程、報告があった市で社会教育委員を6年間務めていた。年8回の会議は公的な会議であり、分科会などを含めるとその倍以上あった。社会教育委員が自ら足を運んで、他市町村の社会教育委員会議などを傍聴して学んでいた。社会教育委員同士が議論し、情報交換をしていくことで、社会教育委員の活性化につながっていくのではないかと考えられる。また、その社会教育委員会議では、どちらかということ子供に関するテーマを扱っている。子供をきっかけにすると、そこから学校応援団、放課後子供教室などの地域活動に関わる人とつながっていく。足を運んで、関わるということで、子供に関するテーマから入っていくと、見て学ぼうということにつながりやすいと考えられる。

議長

市町村の社会教育委員会会議では、開催回数や自分たちで現場に足を運ぶなど会議のやり方も違う。地元では、社会教育委員が代わるたびに、社会教育委員として何をしていたかなくてはならないのかという話になり、いつも振り出しに戻る。社会教育委員は、地域の課題を把握することがスタートになると考えている。そういうことから各地域の情報を集めながらモデルになり得るものができるとういと思っ
ている。地域課題を解決していくために何をしていたかなくてはならないのかという視点で、社会教育が現実に働いていくことが見えてくると考えている。

副議長

地域社会に関わっていると、どんな団体でも後継者がいないという悩みを抱えていると感じる。社会と関わるという意識自体が根本的に少なくなってきたと感じている。その課題を改善していかなければならない。県の立場というものは、国と市町村に挟まれて難しく、また広域的な立場である。県の社会教育委員会会議も同じで、ある程度広域的に見ていく必要があると思っている。

埼玉県社会教育委員会会議のテーマについて（協議）

議長

次に、委員の皆さんから多くの意見をご発言いただくため、2つのグループに分かれて行いたい。事務局より説明をお願いしたい。

事務局

グループ協議について説明。

2つのグループに分かれて協議

議長

各分科会の意見を発表していただきたい。

事務局

○子育て支援に関すること

- ・地域の行事などへ参加する負担感などの親の意識の変化により、子供同士の関わりが少なくなり、さらには、コミュニケーション能力にまで影響が出ている。
- ・子供のトラブルは、母親の愛情不足に起因することもあるとされる世代間の考え方の違いを共有していかないといけない。

- ・埼玉県家庭教育アドバイザー等が、各地域でのコーディネーター役となり、関わっていく必要がある。
- ・父親の立場や祖父の立場からも、子供の成長に関わるべきであり、男性の地域とのかかわり方や父親の家庭での働きぶりが大事ではないか。

○家庭や地域の教育力を生かした学習支援に関すること

- ・地域での縦のつながりが少なくなっている。年齢層の枠を超えたつながりをつくるコーディネーターが必要である。
- ・社会教育関係団体自らが、若い人の参加を促すために、活動内容を伝えていく努力をする必要がある。
- ・ある市町村では、「一人一ボランティア」施策により、地域でボランティアの考え方が根付いている。
- ・子供の時から、公民館活動に参加し学び続けることは、地域づくりにつながるのではないか。
- ・開かれた公民館とすることで、地域の核として、コミュニティを構築でき、地域の結束力も高まる。
- ・公民館活動の活発化は、地域の活性化につながる。

○アクティブシニアの活躍や高齢者の支援に関すること

- ・公民館の事業等への子供の参加が少なく、高齢の方の参加が多くなっている。
- ・ワーク・ライフバランスの推進のためにも、男性向けの地域での学びの場を設け、男性が家庭や地域に戻れるようにする必要がある。
- ・男性の地域デビューのきっかけとなるような男性のボランティア参加についても考えていく必要がある。

○障害者の学習支援に関すること

- ・健常者に対して、共生社会の実現に向けた取組の必要性を伝える必要がある。
- ・障害者が学習に参加するには、情報が、届けたい人に届くようにつながりや仕組みをつくる必要がある。

議長

2つの部会からは、社会教育における地域課題について、多くの意

見が出されたようである。追加の意見等があればお願いしたい。

委員 一番の問題は、社会教育委員会議の建議をいかに地域社会に浸透させていくのかということである。それをやらないと、この会議も意味がないものになってしまう。

委員 県内でいろいろと活動されている委員の方から意見を聞き、勉強させていただいた。この会議に出席する社会教育委員自体がコーディネーターとなってつながっていくべきでないかと考えている。会議の運営も、本日のような小グループでの討論などをして、委員の方々と親しく意見交換、情報共有できたら嬉しく思う。

委員 同感である。いろいろな業界ごとにテーマ、対象、内容によって相違点がある。社会教育委員同士で情報交換をすることで相互理解が進み、議論も活発化すると思う。

委員 各市町村における社会教育委員会議の建議への対応状況などについて、アンケート調査をしたらどうか。アンケート調査を実施して、初めてその取組を知るという場合もある。ぜひ実施してほしい。

議長 貴重な意見に感謝する。この後、事務局と私で整理させていただくが、今後も、委員の皆さんの立場や実践から、多くの意見をいただきたいと考えている。

それでは、本日の議事は以上で終了する。